ハザードマップの基礎情報について

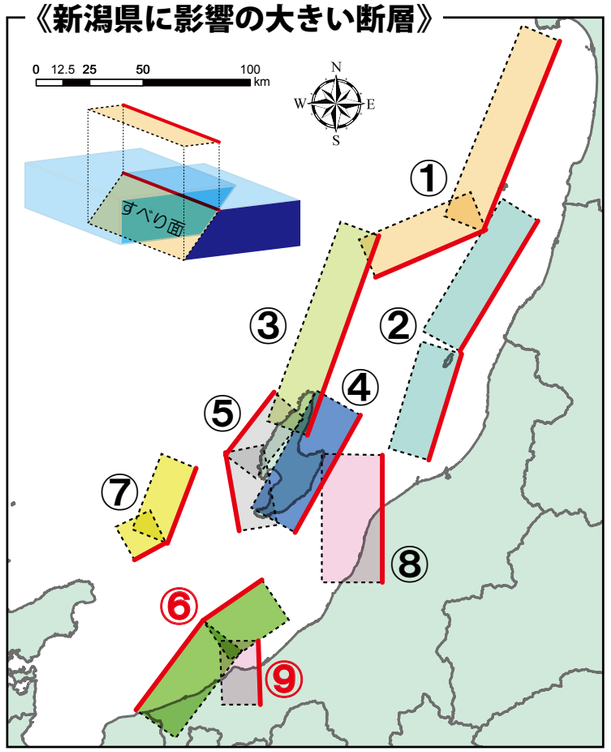
津波断層モデル

新潟県では、国が公表した断層モデルのうち、新潟県に大きな影響を及ぼす7つの断層（①～⑦）と県が独自に公表した２つの断層（⑧、⑨）を合わせ、９つの断層モデルを採用して、津波浸水想定を公表しました。

当市には、⑥F41（上越・糸魚川沖）断層と⑨高田平野西縁断層帯による津波が想定されており、⑥F41（上越・糸魚川沖）断層による津波が最も大きな影響を及ぼすとされています。

No.	公表	断層モデル	モーメントマグニチュード※
①	国	F30（秋田・山形沖）	7.8
②	国	F34（県北・山形沖）	7.7
③	国	F35（佐渡北）	7.6
④	国	F38（越佐海峡）	7.5
⑤	国	F39（佐渡西）	7.4
⑥	**国**	**F41（上越・糸魚川沖）**	**7.6**
⑦	国	F42（佐渡西方・能登半島北東沖）	7.3
⑧	県	長岡平野西縁断層帯（弥彦ー角田断層）	7.63
⑨	**県**	**高田平野西縁断層帯**	**7.10**

《新潟県に影響の大きい断層》



※モーメントマグニチュードとは、岩盤のずれの規模をもとに地震の大きさを示したものです。

日本海側の津波の特徴　～「津波対策の方向性の検討に係る調査研究」より～

《津波高・津波到達時間》

⑥F41（上越・糸魚川沖）断層に近い上越市の西部（名立区方面）では、津波高が高く、津波到達時間は **5 分～ 10 分程度**と想定され、F41 断層からやや遠い東部（柿崎区方面）では、津波高は低くなり、津波到達時間は **10 分～ 15 分程度**とされています。

《津波の発生原因となる地震の発生間隔》

これまでに国、県が行った津波堆積物調査によると、⑥F41（上越・糸魚川沖）断層をはじめ上越地域から富山湾沿岸における断層の活動頻度は、数千年に一度程度とされています。そこで市では、市内 2 箇所で約 1 万年前までの地層をボーリングにより採取し津波堆積物調査を行いましたが、津波による堆積物などの痕跡を確認できませんでした。

このことから、これまで**当市が津波の影響を受けた可能性は非常に低いもの**と推定できます。

令和６年能登半島地震の検証について

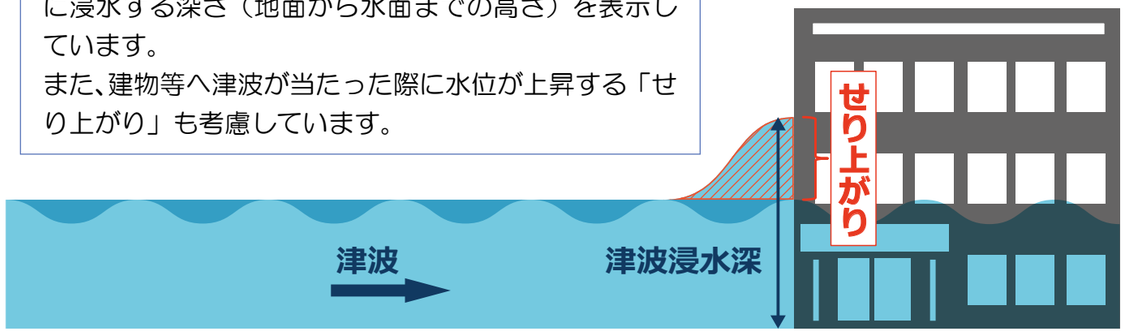
令和６年１月１日に発生した能登半島地震では、当市で最大震度５強を観測するとともに、津波警報が発表され、船見公園では遡上高 5.9m の津波が発生しました。初めて経験した津波災害に焦点をあて、住民避難等の在り方を検証し、津波からの避難は原則徒歩としつつ、自力での避難が難しい避難行動要支援者に限定し、「車を使用した避難も可能」とする方針に変更しました。【市ホームページ】

ハザードマップの見方について

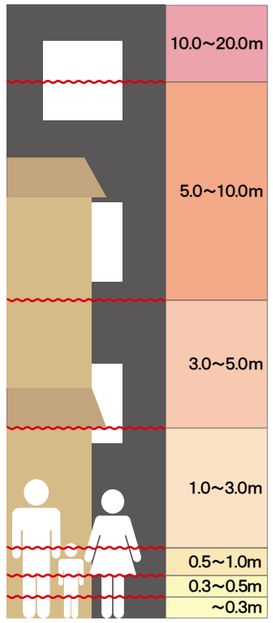
《津波浸水深》

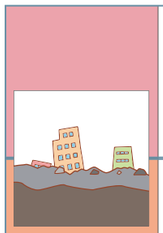
津波浸水想定に基づき、最大の津波が押し寄せた場合に浸水する深さ（地面から水面までの高さ）を表示しています。

また、建物等へ津波が当たった際に水位が上昇する「せり上がり」も考慮しています。



浸水深の目安





浸水深：10.0m～20.0m
３階建ての建物（あるいは３階部分まで）が完全に水没します。



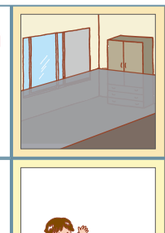
浸水深：5.0～10.0m
２階建ての建物（あるいは２階部分まで）が完全に水没します。



浸水深：3.0～5.0m
２階の浸水が始まります。3m 以上で、ほとんどの木造家屋が全体的に破壊されます。



浸水深：1.0～3.0m
１階軒先までつかります。木造家屋が部分的に破壊されます。



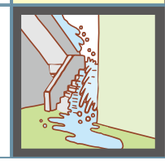
浸水深：0.5～1.0m
１階の浸水が始まります。



浸水深：0.3～0.5m
津波の速い流れにより人が動けず、避難行動が困難となります。



浸水深：～0.3m
大人のひざ下までつかります。



地下街（地下道）では
浸水深に関わらず、地下は水没、がれきによって閉じ込められるおそれがあります。

市が指定する避難施設

指定緊急避難場所	身の安全を確保するために緊急的に避難する場所又は施設
津波避難ビル	指定緊急避難場所のうち、津波浸水想定区域内において指定した建物（ビル）
指定緊急避難場所兼指定避難所	指定緊急避難場所と被災者が一定期間滞在することができる指定避難所を兼ねた施設

この他にも、「標高の高い場所」や「頑丈な建物」のほか、ハザードマップで着色されていない浸水想定区域外（白地で表示されている地区）などへの避難を検討しておきましょう。